留学体験記定期レポート（10 月）

L245009　門脇琉奈

私は 2026 年 9 月 29 日に成田空港からおよそ 14 時間半の直行便でポーランドのワルシャワ・フレデリック・ショパン空港に着きました。私のほかもう一人島根大学から交換留学生がいたので一緒にポーランドへ向かいました。ワルシャワに到着後、私たちは大学のあるポズナンまで列車で 3 時間かけて向かいました。「KOLEO」という電車のチケット購入ができるアプリを入れて事前に購入しました。

ポーランドでは Buddy 制度というものがあり、島根大学でいうチューター制度と似たようなものがあります。留学する 2 週間前に Buddy の案内メールが届き、日本にいるときからマッチングした現地の大学生とコミュニケーションを行っていました。私がマッチングした学生は日本語を専攻にしており、今年の 8 月まで日本に半年間留学していたそうです。とてもいい方でポズナン中央駅まで出迎えてくれました。

ポズナン中央駅から歩いて 20 分のところにあるハンカ寮というところで私は約 9 カ月初めての一人暮らしをします。ほかにも寮があるのですが、ハンカ寮が一番高級らしく、見た目も寮っぽくありません。家賃は一カ月 1320PLN（日本円 52,723 円）で去年より値上がりしたらしく、シェアルームを希望すれば値段を抑えられるのですが、一人時間がほしい私はシングルルームを選択しました。あとから聞くとほかの日本からの学生は自分たちではシングルかシェアか選択することができなかったと聞いたので、島根大学ありがたやと思いました。

10/1 に行われた留学生オリエンテーションで日本人が 15 人いる事を知ります。え、そんなにいるの？と正直思いました。去年交換留学された方の話では日本人はほとんどいないと聞いていたので、内心うれしいのとあまり関わりたくないという気持ちで複雑でした。というのも私がポーランドを交換留学先に選んだ理由として、日本人がいない環境でどれだけ生きられるのか実験してみたいというのがありました。しかし 1 か月経った今思うことは、そんなに深刻に考えない方がいいということでした。日本人とも交流するし、ほかの国の人とも交流する。YES/NO はっきりして自分の心が正常かつ安定を心掛けることが留学生活をこれからもより良いものにしていくうえで重要だと考えます。

授業は、私の場合[Polish language], [cities and Societies in post – Migrant Conditions], [Gender and language in the professional workplace], [Touristic attraction of Northern Europe]の 4 つを取っています。

授業は全部英語で行われており、今は内容を理解するのにも精一杯です。しかし、ほかの人たちが積極的に発言している光景はあまり日本の授業風景では見られないためいい刺激をもらっています。
島根大学のように一つのキャンパスに学部棟が密集しているわけではなく、ポズナン市内に学部棟がそれぞれ散らばってあり移動が大変です。そのことも頭に入れながら授業を組むのは難しかったです。

個人的な話では、この 1 か月間で何回もホームシックに陥ったり、カバンや財布などの貴重品をなくしたりとトラブル続きでもこうやって生きております。携帯だけは何としても死守します。



留学生オリエンテーションの様子



ハンカ寮



ポーランドの郷土料理 Pierogi



日本語学科のみんなとご飯会



Wrocław 中央駅



Kotlet schabowy
（ポーランド風とんかつ）